

日本農芸化学会 2013 年度大会**ランチョンセミナー【LS10】****■ 日時 2013年3月26日(火) 12:30 ~ 13:20****■ 会場 B11 会場 (東北大学 川内北キャンパス 講義棟 B101)****超遠心分析法の****タンパク質機能・構造生物学における貢献****演者****ベックマン・コールター株式会社****ライフサイエンス テクニカルマーケティング統括部門****新井悦郎**

機能・構造生物学において重要な、タンパク質の自己会合や他の分子とのインタラクションを解析できる、超遠心分析法をご存じでしょうか。

超遠心分析法の利点

- ① 試料を担体に固定せず、溶液中に溶質として存在したまま解析します。分子内すべての相互作用部位が活性状態のままの Native 状態で解析できます。
- ② 分析中の濃度変化（希釈など）が少なく、濃度依存性の高い系の解析に優れます。
- ③ 数百万程度までの幅広い分子量が求められます。
- ④ 分子形状推定ができるとともに、形状によらない正確な分子量も求められます。

超遠心分析法で分かること

右図に示しました。これらの情報は結晶解析・NMR 解析の背景情報としても有用です。

セミナーでは、

分析用超遠心システム「ProteomeLab XL-A/I」(ベックマン・コールター)による超遠心分析について、その分析原理と、応用例（製薬業界における生物製剤応用、タンパク質機能・構造生物学における応用など）を紹介します。

溶質タンパク質の分子量（会合状態） 自己会合体の均質性 自己会合体の会合定数 2種のタンパク質の会合の有無・会合状態 自己会合体／複合体の形状 

分析用超遠心システム
ProteomeLab™ XL-I

ベックマン・コールター株式会社

お客様専用 ☎ 0120-566-730 ☎ 03-6745-4704 FAX 03-5530-2460
E-mail bckkcas@beckman.com URL <http://www.beckmancoulter.co.jp>